

シリーズ「きょうだいの思い」⑪

高校生活②

高校生活につまづいた私だが、学校外に自分の居場所があったことで救われていた。

中学を卒業する時に、それまで障がいを持つ同級生達との関わりを『高校』という壁で途絶えることなく続けていこうと、サークルが立ち上がった。

私の年代では、このようなサークルは市内に10校ほどあった。
また、市内のサークル間の交流や活動の場として『障がい児・者と共に歩む会』があった。
毎月の会議や、夏の摂津挾キャンプ、障がい者問題を考えるシンポジウム、対市交渉など、時には高槻に限らず、府内で同じような活動をしている人達との交流もあった。

共に歩む会で出会った他校の卒業生達の存在が、高校生活につまづいた私を支えてくれた。

あの頃から20年以上も過ぎて、高校生活のことに限らず、これまでの自分の経験を振り返って、私は障がい者の『きょうだい』であるがゆえに心が痛んだり辛いことがあるけれど、結局は弟(障がい者)つながりの場所や関係で心を救われたり、癒されたり、人との出会いにも恵まれているのだと気づくことができた。
特に、人との出会いには本当に感謝している。

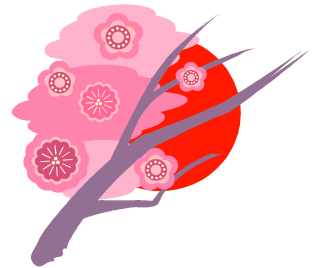
恥ずかしながら、こう気づいたのはここ数年の間である。
そして、感謝の思いの中に弟も含まれるようになった。

でも私は、デキた姉ではない。
弟の自閉症独特の強いこだわりや融通の無さ、激しいパニックには、時にイライラして腹が立ち、全身全霊、もう魂の底からウンザリする。
その時は、感謝の気持なんてカケラもない！(笑)

前穂通信

まえほほん
つうしん

発行日	2012年4月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



知的ガイドヘルパー養成講座報告

ガイドヘルパーの養成も事業者の使命と考え、事業開始以来、定期的に関講し続けて参りました。
今回も3月26日と4月2日の2日間で実施し、6名のガイドヘルパーを皆様にお届け致しました。

前穂の特徴は、

- ①少人数制:採算重視ではなく、受講者お一人お一人に丁寧にお伝えする事が大切と考えております。
- ②講師は可能な限り前穂スタッフ:現場での想いや経験をお伝えするのが大切と考えております。
- ③2日間で完了:早朝～夜と一日をフルに使うことで、多くの方に参加して頂けるようにしております。
の3点です。これからもより多くの方が、(特に男性が..)ガイドヘルパーに携わって頂ければと願っております。

前穂からのお知らせ

【常勤職員退職のお知らせ】

スタッフ退職